

書 評：NHK スペシャル「日本人」プロジェクト編．2001．NHK スペシャル日本人はるかな旅．第1巻 - マンモスハンター，シベリアからの旅立ち．256 pp. ISBN4-14-080623-0. 第2巻 - 巨大噴火に消えた黒潮の民．248 pp. ISBN4-14-080624-9. 日本放送出版協会，東京．両者とも本体価格1800円．

全5巻シリーズの第1巻と第2巻である。このシリーズは、本の題名にもなっているように「NHKスペシャル日本人はるかな旅」という番組と、国立科学博物館(東京・上野)で9月18日～11月11日の期間に開催される「日本人はるかな旅」展に連動して企画されたものである。スペシャル番組と企画展示の関連出版物というわけである。第1巻は8月に、第2巻は9月にすでに刊行され、続く「第3巻 - 海が育てた森の王国」は10月に、「第4巻 - イネ、知られざる1万年の旅」は11月に、「第5巻 - そして“日本人”が生まれた」は12月に刊行される予定である。各巻が番組の放送日にあわせて刊行されるという仕組みである。

このシリーズの内容には大きな特徴がある。番組との連動ということもあって、編集は番組製作者を中心にしたプロジェクトであることである。構成も特徴的で、冒頭から24ページにわたるカラー写真が、テレビ画面に対応するように飾られる。さらにそれぞれの番組の制作を担当したディレクターが、約80ページにわたって総説を展開している。その最後にはCG制作記も付けられている。そのあとは、最新の研究成果を数編のまとまりのある論説によって紹介し、続いてトピックスがエッセイ風に登場する。構成としては奇抜である。最新の研究成果も、もちろん興味深いものがあるが、

何といっても担当のディレクターによる総説は読みごたえがある。幅広く多くの研究者と接したり、関連するシンポジウムや研究会にもせっせと足を運んで取材を重ねただけあって、研究者が書く総説とは、ひと味もふた味も違っていて楽しい。

テレビの画像は多くの人にインパクトを与える。あたかも珠玉の完成品を見せつけられるような錯覚を受ける。事実、豊富な資料をもとにして精緻に描き出されたものもある。しかし、一方では、大胆に仮説として提示されたものも少なくない。その違いを視聴者が間違いなく理解することは容易なことではない。今回のシリーズでは、番組においてもそのあたりをできるだけ明確にしようとのディレクターの努力が節々に垣間見られる。番組に連動したこの出版物は、そうした苦勞を読み取るにも興味深いものである。

何よりも、地味な研究成果がメディアや展示をとおして分かりやすく公開されることは歓迎すべきことである。これまでに見られなかった斬新な出版物の登場を喜ばしく思う。

ウェブ上の <http://www.inpaku.nhk.or.jp/nihonjin/> で番組制作の舞台裏も公開されているので、あわせてご覧になると、いっそう番組づくりへの興味が高まるのではないだろうか。

(辻 誠一郎)

書 評：清水建美．2001．図説 植物用語辞典．xii + 323 pp. ISBN 4-89694-479-8. 八坂書房，東京．本体価格3000円．

植物解剖学の教科書は、内外でかなりの数が出版されているが、植物の外部形態を対象としたものは少ない。植物の形態を記述したり、記載に記されている単語を調べる際には、図鑑類に付属する用語集や、植物に関係する辞典・辞書類、あるいは文部省の学術用語集など、多数の書物を参照して、適当な日本語および英語の術語を探しだし、意味を確かめるというのがこれまでのやり方であった。その点で本書は、単なる用語集という体裁はとらずに、各器官ごとに、関連する学術用語を中心として、その形態を解説するという記述方法をとっており、植物形態学の教科書と言ってもよいような内容となっている。もっとも教科書として執筆されている訳ではなく、植物の形態とそれを記述する言葉を解説することに重点が置かれており、用語の解説は、一般の方々にも分かるように、多数の具体例ひいて記述されている。また専門家にとっても、本文中ではすべての用語に日本語と英語が併記してあって、日本語と英語のそれぞれの術語索引がついている点で、使い勝手のよい書物となっている。

本書のもう一つの特徴は、梅林正芳氏の植物画と故巨理俊次氏の植物写真を多数配している点である。形態の用語は、実物を見ないかぎり、いくら言葉で記述されても分かりにくいものである。その点で、本書に掲載されているすぐれた植物画と写真は、術語を直截的に理解するうえで役にたつ。

全体は9章からなり、I. 植物群を表す用語、II. 習性によって分けた植物の用語、III. 花に関連する用語、IV. 果実と種子に関連する用語、V. 葉に関連する用語、VI. 茎に関連する用語、VII. 芽に関連する用語、VIII. 根に関連する用語、IX. 生殖に関連する用語に分けられている。

本書は、植物を観察したり記載したりする人々にとっては座右の書となるであろう。その意味で、本書にとっては周縁の分野であるが、木材に関する術語の誤りなどは、ぜひ改訂の際に修正していただきたいと思う。それにしても、植物形態の多様性とそれを記述する言葉の多様性は驚くほどあることが本書をみるとよく分かる。

(能城修一)